

<2021 年度コロナ禍における臨床検査学科の学修状況について>

1. 1～4 年次共通

- ① 講義:教室数に限界があるため、原則、専任教員は対面授業、非常勤講師はオンデマンドを実施している。オンライン授業の出席管理は、課題提出、ライブ(2～4 年次)は課題および参加者レポート(Teams システムの機能)等で確認しています。但し、非常勤講師科目であっても、学修効果上必要な場合は対面で実施しています。
- ② 実習:感染対策の上人数を減らし、教室をフル活用して学生全員が同じ内容になるように分散対面実習をしています。

2. 講義については、学年毎に対応を分け、工夫しています。

- ① 1 年次:原則、感染対策に配慮し、全員対面授業を実施しています。
講義については、慣れない PC 環境を配慮し、オンラインは非常勤のオンデマンド授業のみであり、専任教員は全員登校で対面授業を実施しています。
- ② 2～4 年次:ハイブリッド授業を実施しています。半分は対面、半分はオンラインライブ授業であり、質疑応答も各教員の工夫によりリアルタイムで実施しています。ライブ学生が授業に参加できているかをリアルタイムで確認をしたり、チャットもフル活用して配慮しています。但し、緊急事態宣言中は大学の指示により、ライブ授業を遂行していません。

3. 実習については、感染対策の上人数を減らし、実習室をフル活用して対面実習をしています。

- ① 3 年:後期に臨地実習(病院実習)が始まるため、そのための事前準備やマナー講座等の特別授業を実施しました。
- ② 4 年次:各研究室に学生が分かれ、卒業研究や国試対策を指導しています。また、国試対策として、国試対策委員会が中心となり計画実施しています。過去問対策システムの立ち上げ、医歯薬模試の実施や管理も遂行しています。
- ③ 大学院生や他施設臨床検査技師による実習補助を雇い、学生にしっかり向き合える体制を取っています。

4. 学修サポート体制

- ① 科目担当教員は直接、チャット、メール等で随時質問を受け付け、回答しています。また、個人からの質問も全員に周知しています。
- ② クラスアドバイザー(1～4 年)が定期的および必要時に面談し、学生の心理状況も含めフォローしている。特に、昨年度は初めてのオンライン授業、登校日が少ない等で学生の精神面に影響したため、今年度は工夫して可能な限り声かけを実施しています。
- ③ 4 年次は、研究室指導教員によるサポートにより、国試対策、就職試験のみならず国家試験に向けての精神的フォローも実施しています。
- ④ 大学院生による学習サポート(家庭教師)を実施しています。
- ⑤ 教室および学生ラウンジに感染防御板を設け、緊急事態宣言でないときは 9 時～18 時に自習ができるようにしています。また、専門教科の教員にいつでも質問できる体制を構築しています。